

Press Release 2019.11.22

## 白髪一雄

Kazuo Shiraga: a retrospective

謹啓 立冬の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、東京オペラシティ アートギャラリーの活動にご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

当館では2020年1月11日〔土〕より3月22日〔日〕まで展覧会「白髪一雄」を開催いたします。

白髪一雄(1924-2008)は、戦後日本の前衛芸術を牽引した具体美術協会の中心メンバーとして知られ、近年改めて国際的に熱い注目を集めています。兵庫県尼崎市に生まれた白髪は、具体美術協会に参加する前年の1954年より、床に広げた支持体に足で直接描く「フット・ペインティング」の制作を始め、その実践と探求により、未知の領域を切り拓いてゆきます。従来は制作の手段にすぎなかった身体運動(アクション/パフォーマンス)をまさに画面の主役に据えるそのラディカルな方法は、既存の芸術的、社会的な常識を一気に飛び越え、人間がものを作る行為の原初にたち返る画期的なアイデアでした。具体美術協会解散後も先鋭な制作原理を貫いた白髪作品は、空間や時間、物質や運動のなかで人間存在のすべてを燃焼させる圧倒的な力をはらんでおり、同時に、絵具の滴り、滲み、粘性や流動性、堅牢さ、といった油彩画ならではの魅力を豊かに備えています。白髪の探求は、人間の資質と感覚をいかに高めるかという問題や、宗教的な精神性の問題など、独自の人間学的アプローチを含んでおり、様々な視点からの検証を待っています。

白髪の没後10年以上を経て開催する本展は、東京で初の本格的な個展として、初期から晩年までの絵画約60点をはじめ、実験的な立体作品や伝説的パフォーマンスの映像、ドローイングや資料も加え、総数約100点で作家の活動の全容に迫ります。

つきましては、本展を貴媒体で是非ご紹介いただきたく、ご協力のほどお願い申し上げます。謹白

### 【開催概要】

展覧会名: 白髪一雄  
 会期: 2020年1月11日〔土〕—3月22日〔日〕  
 会場: 東京オペラシティ アートギャラリー  
 開館時間: 11:00 — 19:00 (金・土は20:00まで/最終入場は閉館の30分前まで)  
 休館日: 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)、2月9日(日・全館休館日)  
 入場料: 一般1,200(1,000)円/大・高生800(600)円/中学生以下無料

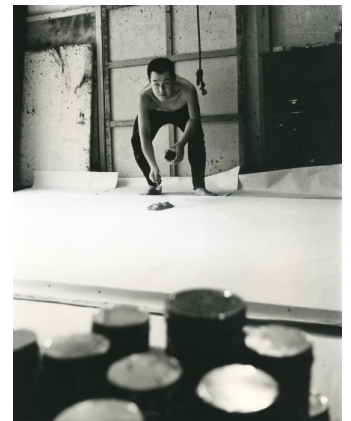
- \* 同時開催「収蔵品展069 汝の隣人を愛せよ」、「project N 78 今井麗」の入場料を含みます。
- \* 収蔵品展入場券200円(project Nを含む/割引無し)もあり。
- \* ( )内は15名以上の団体料金。
- \* 障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。
- \* 割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)  
 ウェブサイト: <https://www.operacity.jp/ag/>

主催 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団  
 協賛 日本生命保険相互会社  
 特別協力 尼崎市、公益財団法人 尼崎市文化振興財団  
 協力: ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社、株式会社ログ キャビン

#### ■「白髪一雄」リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】 福士 【広報担当】 市川  
 Tel:03-5353-0756 / Fax:03-5353-0776 / Email: [ag-press@toccf.com](mailto:ag-press@toccf.com)



アトリエでの制作風景、1960年代  
 画像提供:公益財団法人 尼崎市文化振興財団



《地暴皇震門神》油彩、キャンバス、1961、  
 兵庫県立美術館蔵(山村コレクション)

## 見どころ

1. 白髪一雄の全貌に迫る、都内の美術館で初の大規模展覧会。
2. 1950-60年代、「具体美術協会」全盛期の傑作・代表作30点を展示。
3. これまで観る機会が少なかった70年代の密教に影響を受けた作品群も積極的に紹介。
4. 世界に先駆けて行った「具体」時代初期の伝説的なパフォーマンスや制作過程など、貴重な記録映像を公開。
5. 多数のドローイング、写真、スクラップブック、原稿など、制作の推移の検証につながる資料を展示。

## 内容構成 (予定)

### 1. 知られざる初期作品

幼少より書画骨董、映画や芝居、浮世絵版画や中国の怪異小説などに親しんで育った白髪。当初は日本画を学びましたが、京都の美術専門学校を出てから油彩画に転向しました。初期作品からは、伝統と近代、日本画と洋画など、様々な対立軸のはざままで自己の表現を模索した白髪の息づかいが伝わってきます。

### 2. 「具体」前夜

1952年に金山明、村上三郎、田中敦子らと先鋭的な表現をめざして「0会(ゼロ会)」を結成。その2年後には、床に広げた支持体に足で描く「フット・ペインティング」を創始します。当時の白髪は、身体を酷使して得られる精神的な糧のようなものを、作品を残すこと以上に重視していました。

### 3. 「具体」への参加

1955年、白髪は「0会(ゼロ会)」の仲間とともに、吉原治良率いる「具体美術協会」に参加。以後、実験的作品やパフォーマンスを次々と発表します。それらは今日のインスタレーションやアースワーク、パフォーマンス・アートなどの先駆として高く評価されています。本展ではこれらを貴重な動画や写真資料で紹介します。

### 4. 「水滸伝シリーズ」の誕生

「具体」の国際的評価が高まるなか、作品を海外に送る際、個々の作品を識別するために、少年時代から愛読した『水滸伝』に登場する豪傑たちのあだ名をタイトルにつけ始めます。血なまぐささや暴力性をはらんだ作品イメージに、豪傑たちのあだ名は合致していたのでしょうか。

### 5. 「具体」の解散と密教への接近

白髪は1960年代頃から密教に関心を深め、1971年に比叡山延暦寺で得度し天台宗の僧侶となります。吉原治良の死去を機に「具体」が解散する頃から、作品には密教的な妖しさ、濃密な精神性が漂い始め、素足にかわってスキージ(長いヘラ)を用いて画面に流動感をもたらす方法が優れた効果を上げています。

### 6. フット・ペインティングへの回帰と晩年の活動

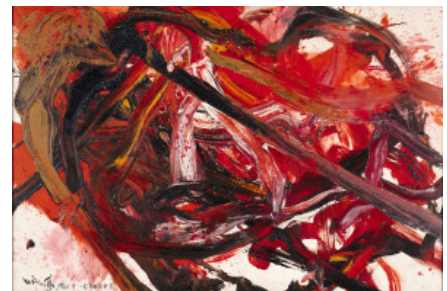
白髪は1974年に延暦寺で激しい仏道修行を修めて以後、スキージで円相を多く描きます。しかし動きに乏しい円の反復で制作は停滞し、それに気づいた白髪は、改めてフットペインティングに回帰します。それは単なる回帰ではなく、精神の凝縮を感じさせる充実した作品群を生み出すことになりました。



《作品(赤い材木)》  
赤色塗料、木  
1957  
東京都現代美術館蔵



《雑航》  
油彩、キャンバス  
1949  
尼崎市蔵



《天空星急先鋒》油彩、キャンバス 1962、兵庫県立美術館蔵



《貫流》油彩、キャンバス、1973、東京オペラシティアートギャラリー蔵  
photo: 早川 一



《群青》油彩、キャンバス 1985、  
尼崎市教育委員会蔵(尼崎市立尼崎高等学校)